

60周年提言概要

組織の生き残りと発展のために

- 刻一刻と変革していく社会情勢の中、生き残りと発展のためどのような組織を選択すべきか

新たな青年会議所のかたちを模索する

- ビジネスを前面に出した事業展開を行い社会環境や経済情勢といった問題を解決していくとともに永続的に運動が続けられる土台作りが必要

新しいまちづくりを考える

- コミュニティの再生を図り現状を把握し、ユニークなまちのビジョンを行政・地域と共有しブランディングアクションを起こしていくことが必要

60周年提言概要

新しい青少年教育を考える

- 急速に発展していく情報社会に合わせた青少年教育を視野に活動を発展していくことが必要

新しい環境運動を考える

- 環境という観点から佐賀空港へのオスプレイ配置計画による有明海の影響に対して考えることが必要

佐賀青年会議所メンバーの可能性

- 会員を増強し、ビジネスに特化した事業展開を行い、佐賀の発展につなげながらメンバーの可能性を引き出すことが必要（200名を達成する行動指針を打ち出す）

60周年提言検証項目

- ①新たな青年会議所のかたちを模索する
- ②新しいまちづくりを考える
- ③新しい青少年教育を考える
- ④新しい環境運動を考える
- ⑤佐賀青年会議所メンバーの可能性



2017～2020の検証を実施

①新たな青年会議所のかたちを模索する

2017：会員社業情報政策・ビジネスマッチング（佐賀JCビジネス事業元年）

- ・メンバーの社業を知り、メンバー間のビジネスマッチングを活性化させるきっかけ
- ・VSOP運動（本業を通じた社会貢献活動）を絡ませた異業種交流会

2018：5年後の自分をフォトジェニック～ハタラクについて考えよう～

（メンバーの社業を対外発信・青少年と絡ませた）

- ・中高生を対象とし、メンバーや地元企業の物販や職業体験ができる事業

2019：SDGsによるビジネス改革（日本JCが2018から取り組み始めたSDGs）

- ・SDGs（持続可能な開発目標）に焦点をあてた異業種交流会

2020：新型コロナウィルス感染症により未実施

考察 

変化する社会情勢に合ったビジネス事業を展開してきたが永続的に続けられる事業にするためには？

→JCらしいビジネス事業をすべきでは？

キーワード：社会貢献・社会情勢・会員拡大

②新しいまちづくりを考える

2017：まちづくりの虎（市民活動団体と企業のマッチング）

- ・まちづくりについて異業種が組みプランを考え発表する事業

2018：レッツらGO～！維新伝心！ビックリおもしろレトロ博2018（明治維新150年）

- ・佐賀城下栄の国まつりと同日開催、先人たちの偉業に触れ郷土愛を育む事業

2019：防災フェス2019（日本JCが2018から取り組み始めたSDGs）

- ・防災・減災をコンセプトに自衛隊・市民活動団体と協働で開催

2020：手作りマスク寄贈・全国一斉花火プロジェクト

（新型コロナウイルス感染に伴う事業）

- ・メンバーと対外からの手作りマスク1,200枚を佐賀市寄贈
- ・「新しい日本をはじめる合図」として嘉瀬川で実施

考察 

ブランディング（価値創造）に繋げていくためには？

→組織を超えたコミュニティー作り・広報戦略をすべきでは？

キーワード：広報発信・パートナーシップ・コロナ

③新しい青少年教育を考える

2017：折り鶴でバルーンを作ろう！！（親子のコミュニケーション・地域の魅力）

- ・佐賀城下栄の国まつりと同日開催、1,300人で13,000羽の折り鶴を作成し、バルーンミュージアムに寄贈

2018：フレンドリーチャレンジ（親子のコミュニケーション・子育ての意識醸成）

- ・武雄の黒髪少年自然の家で親子参加型のキャンプ事業を実施

2019：カードdeマネーゲーム（教育に着目した事業）

- ・大学生と協働で教育プログラムをブラッシュアップし学校では学べない経済を学ぶ

2020：コロナに打ち勝て！主役は君だ！（新型コロナウイルス感染に伴う事業）

- ・新型コロナウイルスの影響で、通年開催されている発表会が中止となったため、感染症対策を十分に行つたうえでダンス発表会を実施

考察 

情報社会に合わせた青少年教育をしていくためには？

→時代に合わせ正しい教育を実施すべきでは？

キーワード：SNS等・eゲーム・コロナ

④新しい環境運動を考える

2017：春と秋の河川清掃（環境委員会が配置されていない）

2018：ゴミ拾いクエスト・アメンボ隊（環境美化の意識醸成・地域魅力発進）

- ・親子参加型で街中のゴミ拾い・河川でカヌ一体験を実施

2019：さがかんきょうまつり（教育に着目した事業）

- ・住み暮らす地域の生物に触れ合い、興味を持っていただくきっかけづくりで開催

2020：春と秋の河川清掃

考察 

佐賀空港へのオスプレイ配置計画による有明海の影響に
対して考えるには？

→時勢に合っていないため時勢に合った環境運動を考え
るべきでは？

キーワード：災害・コロナ

⑤佐賀青年会議所メンバーの可能性

メンバー数推移（各年1月1日現在）

2016：80名

2017：100名

2018：105名

2019：94名

2020：80名

2021：92名

大幅に増えた年もあったが60周年時に比べたら微増である。

考察 

会員の増強は必要であるが、70周年までに200名達成することは可能か？

→達成するために工夫することは？また、200名は現実的であるのか？

キーワード：会員拡大・資質向上